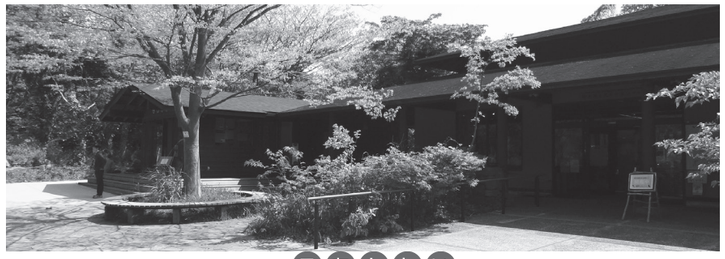
「森に遊びに来ませんか？」
ウェルカムセンター紹介③

横浜自然観察の森 自然観察センター



横浜つながりの森を構成する横浜自然観察の森にある自然観察センターは、市内に5館あるウェルカムセンターに位置付けられた施設の一つです。自然観察センターでは、常駐する自然の専門家（レンジャー）や、展示から季節ごとの自然情報を得ることができます。小学校の体験行事や団体での利用が多いほか、ボランティア団体「横浜自然観察友の会」による行事も毎月開催しています。

ごあんない

開館時間	9：00～16：30
住　所	〒247−0013　横浜市栄区上郷町１５６２−１
TEL/FAX	TEL: 045−894−7474　FAX: 045−894−8892
休 館 日	毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日） 年末年始（12月28日～1月4日）
アクセス	京浜急行金沢八景駅またはＪＲ大船駅から 神奈川中央交通バスで「横浜霊園前」下車徒歩7分

実・施・報・告

農と緑のふれあい祭り
インタープリター養成講座修了生によるブース出展

横浜市では、身近な自然環境に目を向け、自然を楽しみながら、人々の関心を引き出し、自然と人との関わりや自然の大切さを伝える役割を担う人材（インタープリター）の養成講座を開催しています。

昨年度の養成講座修了生が、横浜市児童遊園地にて11月3日(火･祝)に開催された「農と緑のふれあい祭り」に、虫をテーマに楽しみながら学べるブースを出展しました。

よこはま森の楽校
～元気もりもり！横浜の森～

横浜みどりアップ計画の一環として、市内大学･学生と連携し、森の魅力や役割を伝えるイベント「よこはま森の楽校」を11月22日(日)にクイーンズスクエア横浜で開催しました。学生が企画した竹や木の実のクラフト教室や竹の輪投げ遊び等を行い、約3,000人の方々にお越しいただきました。学生から「環境教育という分野に興味を持てたのも森の楽校があったからだと思います。」という感想がありました。

森づくりボランティア登録受付中!

横浜市では、森づくりのボランティア活動に興味のある方に「森づくりボランティア」としてご登録いただき、研修等の支援や団体との橋渡しを行う取組を実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。

■問合せ■　環境創造局みどりアップ推進課　森づくり担当
TEL：045-671-2624　FAX：045-224-6627　ks-jurinchi@city.yokohama.jp

横浜市　森づくりボランティア　検索
http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kyoudou/morivolunteer

現在126名の方にご登録いただいています

横浜みどりアップ計画

市では、「緑豊かな横浜を次世代に」継承するため、横浜みどり税を財源の一部に活用し、取組を進めています。

◇次号の発行予定◇NO.89は平成28年3月末頃の発行予定です。

よこはまの森 ニュースレター

平成27年12月発行　No.88

横浜市環境創造局みどりアップ推進課 〒231-0017 横浜市中区港町 1-1　tel 045-671-2624　fax 045-224-6627
【よこはまの森ニュースレターHPアドレス】http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kyoudou/morivolunteer/mori-news.html

モニタリング調査について～維持管理の成果確認のために～

「横浜市森づくりガイドライン」は森の維持管理をするための手法が整理された横浜の森づくりの技術指針です。「保全管理計画」はこのガイドラインを活用して具体的な管理の計画を定めたものです。

森づくりガイドラインや保全管理計画に基づき作業を実施した後は、維持管理の成果確認のためモニタリング調査として指標種や目標種の調査確認を行います。また、生き物調査のほかに環境の変化なども記録していきます。調査の結果、必要に応じて作業内容や計画の見直しを行いながら、目標とする森の環境に向けた森づくりを実施します。

いろいろな立場の人	いろいろな生き物	その森の立地、歴史
・利用者 ・土地所有者 ・森づくり活動をする人 ・行政（管理者） ・事業者	・明るい森が好きな生き物 ・暗い森が好きな生き物 ・湿地が好きな生き物 ・森も草地も必要な生き物	・地形や気候 ・周りの土地利用 ・昔の土地利用 ・風習や言い伝え、伝統行事

目標の設定　ゾーニング（エリアわけ）　管理の方法
みんなで話し合って、調査をして、目標を共有する

生物多様性や安全性に配慮した維持管理の実施

森づくり → モニタリング調査 → 維持管理の成果を確認 → 必要に応じて、作業内容や方法の見直し

維持管理の技術指針「横浜市森づくりガイドライン」

構成▶ ① 横浜の森の成り立ちや 特徴、いきものについて解説
② 森の将来像を決める「保全管理計画」の仕組みを紹介
③ 目標とする森のタイプごとに管理作業の時期、頻度、指標となるいきもの等を紹介（モニタリング調査に必要です）

特徴▶ ・職員の経験や、横浜で活動する専門家の意見でつくった「横浜の指針」
・現在も多く活動する市民ボランティアとも共有できる内容

宮沢ふれあい樹林での取組み（宮沢の森愛護会・瀬谷区）

宮沢ふれあい樹林では、宮沢の森愛護会が中心となって、保全管理計画に定められた指標種の調査を行っています。保全の対象となっているキツネノカミソリやウバユリなど（共に指標種）について、維持管理による変化（数･出現箇所）を継続的に確認しています。また、フォローアップ研修において、モニタリング調査の成果を公園緑地事務所と共有して、今後の維持管理方法について相互確認し連携した取り組みを進めています。

調査区域を環境ごとに分けて、数や出現位置を記録します。

調査ノート

指標種や目標種を知るには

これも覚えよう30種シリーズとして「春の植物30種」「夏の虫30種」「冬の野鳥30種（2016年2月実施予定）」の研修を行っています。

※H27の研修計画はよこはまの森ニュースレターNO.86でご案内しています。

実施報告

新橋市民の森　フォローアップ研修※

～竹林の管理作業～

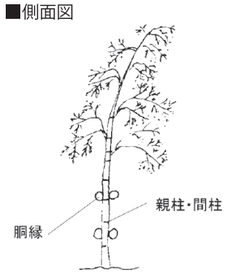
地域の方と行政の協働により策定した「新橋市民の森保全管理計画」では、手入れがなされず荒れた竹林を、明るく美しい伝統的な竹林に整えることとしました。竹林をよく見てみると、単に荒れているだけでなく、タケノコが採られ、親竹が育っていないため、どれも細く貧弱な竹林であることが分かりました。そこで、枯れ始めた竹や古い竹を中心に間伐を行うと共に、人の侵入を防ぐ竹垣を作ることとし、講師の神保賢一路さんの指導のもと、森づくり活動団体の方（11名）を対象とした作業実習を行いました。（平成27年10月30日）

今回製作した竹垣は、一般的な四ツ目垣等と異なり、生きた竹をそのまま親柱に使い、間伐した竹の幹や枝だけでなく、周辺に倒れている枯竹や常緑中低木の伐採材など、現地で発生した材をすべて活用できるのが特徴です。2本の胴縁の隙間にそれらを詰め込んでいき、最後に刈込バサミで整えることで、枯れ材等も目立たず、景観性にも優れた竹垣が完成しました。生きものの住みか（昆虫類の産卵場所等）にもなり、また林内もきれいになるなど、一石何鳥もの効果があります。また、危険な作業や難しい作業が少なく（特に発生材を詰め込んでいく作業）、年代、性別、経験を問わず、多くの人が参加できる管理作業です。

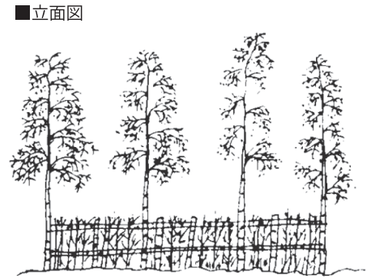
※フォローアップ研修
保全管理計画を作成した樹林地を対象として行う研修。保全管理計画に沿って森づくり活動団体と行政が協力して行っている管理作業について、成果や今後の作業方針について講師を招いて確認をする。

完成イメージ

■側面図



■立面図



Kanoko

枝がついたままの状態で詰め込んでいきます。

最後に刈込バサミで整えて完成です。

森づくり活動団体の皆様には、上記のような講師を派遣する研修（アドバイザー派遣等）をご活用いただけます。ご興味のある方は、みどりアップ推進課までご相談ください。

みどりアップ推進課
TEL:045－671－2624

第31回都市公園等コンクール受賞！

平成27年10月30日、「ひろげよう　育てよう　みどりの都市」全国大会において都市公園等コンクールの表彰式が行われ、「森づくりガイドラインを活用した生物多様性・安全性の森づくり」が「一般社団法人　日本公園緑地協会会長賞　管理運営部門」を受賞しました。

横浜市では、愛護会や森づくり活動団体の皆さんと行政が協働して、市民の森や都市公園内のまとまった樹林地において、森づくりガイドラインを活用し、具体的な管理の計画を定めた「保全管理計画」を策定し、計画的に維持管理を実践しています。今回は、これらの協働の取り組みが高く評価されました。

今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。

都市公園等コンクールとは

都市公園等コンクールは供用を開始している都市公園の設計、施工、材料、工法、施設および管理運営に係る作品を広く募集し、特に優秀なものを表彰することにより都市公園の設計、施工、管理運営等の技術水準の向上および新たな時代の都市公園の創造に寄与することを目的としています。
主催：（一社）日本公園緑地協会　後援：国土交通省

森づくり活動団体基本研修

実施報告

平成27年9月27日（日）　9：30～15：00
■場所■　横浜自然観察の森

10月6日（火）　9：30～15：00
■場所■　新治里山公園（新治市民の森）

講師
神保　賢一路氏（かのこ環境プロデュース株式会社）

本研修は、森づくり活動団体を対象にした安全管理に関する研修です。安全に対する知識や普段行っている作業を見直し再確認することで、より一層安全に森づくり作業を行うことを目的として実施しました。

午前は、森づくり活動中に事故を防ぐために必要なこと及び事故が起こったときの対処法についてグループワークも交え講義を実施し、午後は、開催場所のフィールドにおいて作業実習を行いました。作業実習では、作業箇所の確認・KY（危険予知）作業を行った後、KYをもとに安全な作業方法で、常緑低木の除伐等作業を実施しました。実習では、実施班と見学班とに分かれ、KYや作業の様子を相互に評価する形で行いました。

作業実習の様子

基本研修参加者の感想

- 事前準備や、役割分担を明確にすることが事故防止の為に大事だと再確認できた。
- 今まで漠然とKY作業をしていたが、より具体的なKY作業（危険動植物の有無等）をするべきと感じた。
- グループ別で評価すると自分のやり方が良く分かり、反省材料ができた。
- 今まで当たり前のように行ってきた作業動作を見直すきっかけになった。慣れは危険。
- 座学半分、実習半分が良かった。

今後の研修予定

研修名	対　象	時　期	概　要
森づくりリーダー養成講座	森づくり活動団体	2月頃実施予定	会員募集チラシの作成
これも覚えよう！３０種シリーズ「冬の野鳥３０種」	森づくりボランティア 森づくり活動団体	２月３日、４日 実施予定	野鳥の生活と環境・管理作業との関係性について学ぶ
救命救急講座	森づくり活動団体	２月頃実施予定	怪我や事故等への対応方法 AEDの使用方法（AED貸出団体は必須）

「横浜市樹林地管理団体活動助成」利用例

公園の森づくり活動紹介

～「わかぎの会」（戸塚区）～

谷矢部池公園内の樹林地で活動している「わかぎの会」のメンバーは、隣接する矢部小学校PTAのOB、OGを中心に構成されています。日ごろは地域の子ども達が安全安心に遊べるように「皆で楽しく整備をしていく」ことをモットーに活動を行っています。

毎年11月には、樹林地内の竹を加工して作った灯籠に灯りをともす「竹灯籠の夕べ」と題したイベントを開催しています。約3000人が来場する、地域住民同士の絆を深める場になっています。1月には自然観察会、3月に工作教室も実施予定です（このイベントでは、本市の活動助成制度を活用します）。

こうした様々なイベントを通じて、森づくりの活動が公園に親しむ機会や地域交流を育む場づくりにつながっています。

「竹灯籠の夕べの様子（H26）」

自然観察会の開催（H27）